

命の大切さと助け合う心

- ◆ 28年前の1995年1月17日、尊い命、大切な人、生活を営む家・仕事・学びの場を一瞬のうちに奪っていった阪神・淡路大震災。その日から今日まで、助け合って頑張ってきた私たち。災害の記録・記憶・学んだことをつないでいくために、私たちはどうすればよいでしょう？



わたしたちの住む兵庫県が、阪神・淡路大震災で被災した際、国内外の数多くの支援により、たくさんの人が助けられ、今日の復興を成し遂げることができたことを、我々は忘れてはなりません。そして今、「被災地への助け合い」「思いやりの心」を大切にして、**自分に何ができるかを考えてみましょう。**



【神戸市人権啓発冊子 「あすへの飛翔」より】



一・二七希望の灯り 碑文
 一九九五年一月二七日
 午前五時四六分
 阪神・淡路大震災
 震災が奪ったもの
 命 仕事 団欒 街並み 思い出
 ・ たった一秒先が
 予見できない人間の限界・・・
 震災が残してくれたもの
 やさしさ 思いやり 絆 仲間
 この灯りは
 奪われた
 すべてのいのちを
 生き残った
 わたしたちの思いを
 むすびつなぐ
 神戸市中央区 東遊園地内
 【一・二七希望の灯り碑文より】